

いわき湯本病院

症 例 概 要 患者:70代 女性

病名:脳梗塞

入院期間:2021年2月上旬～2021年3月下旬

経過:自宅で介護を要する夫と二人暮らしであり家事動作含め自立していた。2021年1月中旬に左基底核梗塞により急性期病院へ入院。麻痺は改善みられ軽度であったが、認知機能の低下および夜間の不穏行動、自発性の低下などにより自宅退院は困難とみられ、リハビリと施設調整の為2月上旬に当院へ転院となった。チーム医療により認知機能の改善みられ不穏症状も軽減し、自宅退院となった。

内 容

70代女性。夫と二人暮らしであったが夫は脳梗塞の既往があり日常生活に介護を要する状態であったため、家事と夫の介護を行っていた。

2021年1月中旬意識障害、右片麻痺、歩行障害により救急搬送され左基底核の梗塞と陳旧性多発脳梗塞の診断で入院となる。入院時のブルンストロームステージは上肢2 下肢3であった。麻痺はブルンストロームステージ上肢4、下肢4と改善は見られたが入院中認知機能の低下が著明で夜間せん妄や危険行動、独語もみられ、また、リハビリも消極的であり自宅退院は困難と判断されたため、2月にリハビリと施設調整を目的に当院へ転院となる。

転院時の状況は、排泄はFrカテーテル留置およびテープ式オムツであり、移動は車椅子でFIM41点(運動27点、認知14点)であった。

転院当日よりベッドからずり落ちたり、立ち上がったなどの行動が見られた。「夫がなくなって昨日は葬式だった」などの発言があり落ち着きがなくなることが見られた。近所に住む娘さんの協力を得て夫と電話で話す機会を作るなどご本人の不安の軽減に努める事で、不穏行動が軽減しリハビリにも積極的に取り組むようになり、2月下旬には室内歩行が伝い歩きで可能となった。また、転院初日にFrカテーテルの抜去を行いトイレ誘導を開始したところ自排尿を認め、4日後には排泄動作自立となった。

3月上旬には病棟内でのT字杖歩行が可能となり、会話内容も時折辻褄が合わない事が見られるが直ぐ訂正できる程度となった。

ご家族とはリモート面会で会話をしてもらい、動作時の確認を動画でしていただいたところ、近隣の娘が家事などを手伝う事で自宅での生活が可能であろうと判断され3月下旬に自宅へ退院となった。退院時のFIM90点(運動69点、認知21点)であった。

脳梗塞による麻痺の程度は軽度であったが認知機能の低下により自宅退院は困難と思われたケースであったが、ご本人の気持ちに寄り添う事で不安が軽減しリハビリにも積極的に取り組むようになり比較的早期に自宅退院が可能となったケースである。